

## 成果の説明書

(氏名) 唐澤達之	(学部) 経済学部
<b>1 重要事項</b>	
<p>(1) 科学研究費助成事業基盤研究 (C) 「近世ロンドンの給水事業に関する研究」(研究代表者: 唐澤達之) による研究</p> <p>当初 2017 年度より 3 年間の研究期間で採択された標記研究課題の科学研究費助成事業の研究期間を 1 年間延長することが許可されたので、2020 年度も研究を継続した。今年度当初の計画では、8 月下旬にロンドン市文書館とイギリス国立公文書館において近世の給水事業会社に関連する史料の収集を行う予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大のために実行できなかった。しかし、昨年度までに収集した近世ロンドンの代表的な給水事業会社のひとつであるチェルシー給水事業会社の会計記録や理事会議事録の転写及び分析を継続し、資本調達の方法と出資者の社会層、事業会社が提供するサービスの内容や給水の地理的範囲と収益の規模、顧客の社会層、企業の統治のあり方等の点に留意しながら、当社の経営分析を行った。これらの成果を 2021 年度中に論文として発表するために、現在執筆中である。</p>	
<p>(2) 科学研究費助成事業基盤研究 (B) 「工業化以前の都市の機能と経済発展: 「長期の」18 世紀イギリスを中心として」(研究代表者: 山本千映 [大阪大学]) による研究</p> <p>2020 年度より 3 年間、標記研究課題で科学研究費助成事業に採択された。本研究では、イギリス都市史の個別実証研究の成果を総合し、都市に居住することの効用という観点から都市化のメカニズムについて定性的な分析を行うとともに、工業化に先立つ都市化の要因を可能な限り数値データでそろえ、計量分析を行うことを目的とする。</p> <p>2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、夏季に予定していたイギリスでの史料収集はかなわなかったが、研究会をオンラインで開催し、18 世紀イギリスにおける都市化の全般的な趨勢を研究分担者間で把握し、データを収集すべき都市を選定するとともに、個別報告(中野忠「イギリス都市史研究とディレクター」、永島剛「近代移行期イギリス諸都市における疫病と公衆衛生」)を行った。唐澤の主な担当は、イングランド諸都市における水道事業と法定都市改良委員会の動向であるが、これらについて文献サーベイを行った。</p>	
<p>(3) 学会における活動</p> <p>比較都市史研究会の幹事として、例会の企画運営、会誌『比較都市史研究』の編集刊行、会計の管理などに関わった。</p>	
<p>(4) 大学行政関連業務</p> <p>副学長として、学内の種々の委員会を主宰し、全学的な観点から本学の改革・発展の推進に関わった。2020 年度は特に、新型コロナウイルスの感染拡大に対応するための遠隔授業導入プロジェクトチーム、2021 年度前期授業を対面で実施するための検討会、及び新たに設置された基礎教育センターにおいて、責任者として業務を推進した。</p>	
<b>2 その他の事項</b>	
<b>3 次年度以降の計画・抱負</b>	
<p>(1) 研究関連では、科学研究費助成事業基盤研究 (C) の成果を論文として発表するとともに、科学研究費助成事業基盤研究 (B) において水道事業・改良委員会に関する全国的なデータベースの作成を進める。</p> <p>(2) 大学行政関連では、2021 年度以降は研究担当の副学長に指名されたので、第 2 期中期計画(2017 年度～2022 年度)に基づき、全学的な観点から本学の改革・発展を推進するとともに、大学の認証評価への対応が大きな課題となる。</p>	